

第4回沖縄科学技術研究基盤整備機構分科会 議事要旨

1. 日時：平成18年12月14日（木）14：00～16：00
2. 場所：霞ヶ関ビル33階 東海大学校友会館「東海の間」
3. 出席委員：平澤分科会長、遠藤分科会長代理、伊集院委員、長岡委員
4. 議事概要
 - (1) 第3回分科会議事録の確認
資料1の第3回分科会議事録の確認がなされ、原案どおり了承された。
なお、評価内容の議論箇所は、発言者名を伏せて公開することが承認された。
 - (2) 第3回分科会議事要旨の確認
資料2の第3回分科会議事要旨の確認がなされ、文言の修正がなされたが、内容については原案どおり了承された。
 - (3) 政策評価・独立行政法人評価委員会（総務省）からの意見書について
資料3の総務省の政策評価・独立行政法人評価委員会からの意見書である「平成17年度内閣府所管独立行政法人の業務の実績に関する評価結果等についての意見」が紹介され、指摘された事項については平成18年度評価において改善を図ることが確認された。
業務実績報告書については評価を受けることも踏まえ、より中身のあるものを作成するよう、機構に依頼した。
中期計画予算における施設整備費補助金の書き方をどのようにするかについては財務省と相談の上、改善を図ることとなった。
 - (4) 機構からの意見について
平成17年度評価を受け、分科会長から意見を求められたため、プレナ一理事長から下記の意見が述べられた。

機構は他の独立行政法人とは異なり、成長段階にある機関であるので、数値ではなく進捗や、予算の範囲での目標達成度等の観点から評価してほしい。

機構の活動については運営委員会が意思決定権を持っているということも踏まえていただきたい。

これに対する分科会長の応答は以下のとおり。

平成17年度実績で十分でないとされた「大学院大学設置準備活動」については平成18年度実績での進捗に期待する。

研究内容の評価は運営委員会が行い、独立行政法人評価委員会においては経営面から見て適切であるかを評価するものである。

(5) 項目別評価表について

資料4の項目別評価表(案)について審議され、原案どおり了承された。なお、プレナー理事長からは次のような意見が出た。

「(1) 研究者の採用等の研究開発の推進」に関して、研究評価のための委員会の設置については国際的研究機関の行っている標準の手続きに沿って行うので、その準備まで報告する必要はないと思われる。

「科学技術分野の大学院教育に関連する会合」については年度計画に盛り込んだが、運営委員会の意見を踏まえ取り止めとなった。

科学顧問グループは運営委員会のもとに置かれる組織である。

その他、委員からは次のような意見が出た。

「1.(1) 研究者の採用等の研究開発の推進」の評価の視点にある、研究評価の準備状況については、評価の中身を評価するのではなく、準備が適切に、きちんとした手続きの下で行われているかどうか

を評価するものである。

「1.(1)研究者の採用等の研究開発の推進 内外の研究者の誘致」にあるポスドクと技術員の確保については主任研究者の裁量に一任されている事項であるとのことだが、採用計画に対する採用人数や採用プロセスを確認することによって、その質及び量が適切であるかの評価を受けるべきである。

「1.(4)大学院大学設置準備活動」にある科学顧問グループの創設準備状況については、平成17年度評価において改善を求めた部分でもあり、機構の運営の評価として必要な項目である。

「3. 予算、収支計画及び資金計画」に関して、未払い金や繰越金については、業務ヒアリングの際に、十分な説明とともに報告してもらいたい。

分科会の評価は計画どおりでなければすべて否定的に捉えるというものではない。理由がきちんと説明され得るものであればよい。機構の運営がより良い方向に向かうことを意図しての評価であることを機構にも理解していただきたい。

(6) 総合評価表について

資料5の総合評価表について審議され、原案どおり了承された。